

進化するグローバルサプライチェーンを支えるSCEM

小売業に限らず、中国や他のアジア地域などへグローバルにサプライチェーンを拡大させた企業にとって、各プロセスの進捗情報を総合的に管理し、トータルリードタイム（発注から納品までの所要時間）をいかに短縮するかは大きな課題である。本稿では、これを支援するためのSCEM（サプライチェーンイベント管理）システムについて解説する。

グローバル化するサプライチェーン

2006年10月29日放送のNHKスペシャル「米中1万キロ・売れ筋商品を急送せよ」は、中国広東省の靴製造工場から香港の輸送会社を經由して米国の大手デパートに至る商品の流れを追って、最新のグローバルSCM（サプライチェーン管理）の姿を端的に示す興味深いドキュメンタリーであった。9月上旬、米国ではまだ暑い時期にもかかわらず女性用ブーツが急に売れはじめ、大手デパートは中国の委託生産工場に追加発注をする。工場では残業して生産を急ぎ、輸送会社は輸送ルート確保に追われる。在庫を持たないジャストインタイム方式のデパートは、生産から輸送まできめ細かなタイムリミットを設ける。関係者のそれぞれが、そのタイムリミットを守るために全力を尽くす。しかし台風という不測の事態が発生し、船舶輸送のタイムリミットが守れそうにない。

このテレビのような光景が、世界中のあちこちで、いままさに繰り返されていることは想像に難くない。トータルリードタイムをいかに短くできるか、決まったトータルリードタイムをいかに守るかが、グローバルな競争

に勝ち残っていくための重要な要素であることは間違いないからである。

SCEMシステムとは

いま小売業や製造業などを中心に調達のグローバル化が進み、生産や物流の拠点、生産委託先などは、中国はもとよりアジアや他の地域に広がっている。そしてこのようなグローバルなサプライチェーンにおいて、トータルリードタイムを短縮し、業務プロセス全体を最適化・効率化するために、さまざまなITシステムが導入されている。企業全体の資源の有効活用を支援するERP（統合基幹業務システム）、企業間のデータ連携を行うEDI（電子データ交換）、生産計画や物流計画の最適化シミュレーションを行う計画系システムなどである。

SCEMシステムも、とくにサプライチェーンにとっては重要なシステムである。このシステムは、関係企業の間で行き交うさまざまな情報を共有し、日々の業務に関わるすべての作業（調達・生産・物流など）の予実績および進捗の管理や、各拠点の在庫情報の共有、サプライチェーンで発生する遅延などのイベントの管理を行う。このシステムによってサ

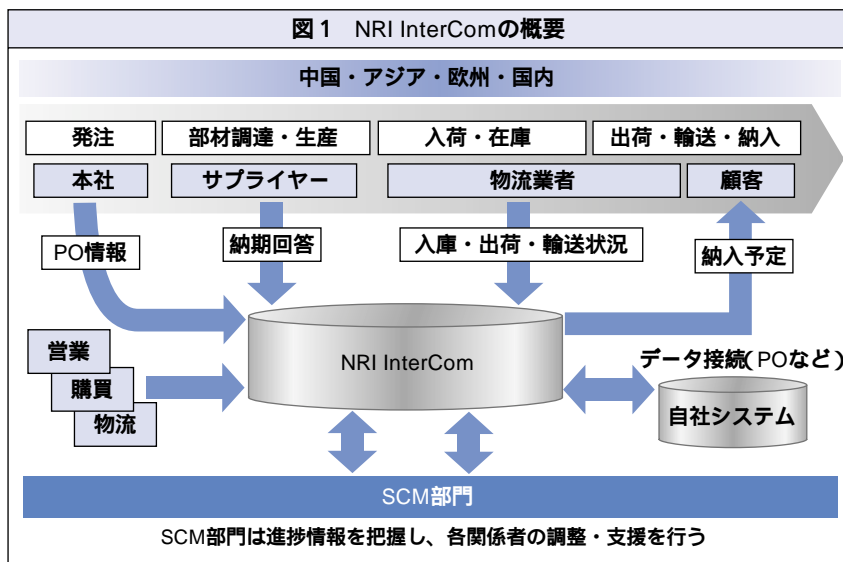
NRI香港
社長

東一典明（とういちのりあき）

専門は業務システムの企画、設計、コンサルティング



サプライチェーン全体を構成するそれぞれの業務プロセスのタイムリミットを共有し、プロセス全体の確実な実行をモニタリングするとともに、不測の事態を早期に検知できるので、速やかな対策が可能になり、トータルリードタイムの短縮が実現できる。



サプライチェーンの情報共有基盤「NRI InterCom」

NRI香港では、中国など海外に進出している日系企業向けにSCEMシステムとして「NRI InterCom」を提供している。このシステムは、サプライチェーンの情報共有基盤として、調達・生産・物流などの各プロセスの情報共有・進捗管理を行うことでサプライチェーン全体の最適化、効率化を支援する(図1参照)。保守・運用もNRI香港が行うASP(アプリケーションサービスプロバイダー)型のサービスとして提供されている(<http://www.nrihk.com/>)。

各サプライヤーがインターネット経由で「NRI InterCom」へ納期回答情報を登録すれば、生産現場ではタイムリーな情報に基づいた実効性のある生産計画を立てられ、これま

で情報収集に追われていた担当者は管理業務により多くの時間を割くことができる。また、各プロセスのタイムリミットを登録しておき、リミットに近付いているプロセスがあれば担当者に警告メッセージを送信したり、期日を過ぎた場合には管理者や後続のプロセス担当者にもメッセージを送信し、早期の対策を促したりする機能がある。

冒頭で述べた米国の大手デパートの例では、船舶輸送で遅れた時間を取り戻すため、陸路での輸送を鉄道からトラックに切り替えて期日に間に合わせる事ができた。サプライチェーンの関係企業が、遅延の情報をいち早くキャッチし、連携した対策を実施できたからである。このようなグローバルSCMの進化が、グローバル経済のさらなる発展をもたらすことになるだろう。